

総社市に政策提言

県立大生ら7人表彰 インターンシップ通じ

総社市は、市役所などでのインターンシップを通じて優れた政策提言をした県立大(同市窪木)とくらしき作陽大(倉敷市玉島)の学生を表彰した。

受賞者は、「『行きたい』と思える観光地」として市のホームページの観光地情報を



賞状を手にする県立大の学生



片岡市長から表彰されるくらしき作陽大の学生(右側の3人)

充実させる提案をしたくらしき作陽大子ども教育学部2年矢本結奈さん(20)ら計7人。市役所で表彰式があり、14日はくらしき作陽大の3人、16日は県立大の4人に、片岡聡一市長が賞状などを手渡した。

政策提言は昨年8、9月に市役所などで就業体験した学生26人から受けた。市幹部と大学教員が独創性や実現可能性などを評価した。市はできる限り市政に反映させる。他の受賞者は次の皆さん。(敬称略、かつこ内は提言内容)

【くらしき作陽大】音楽学部2年上野香穂(認知症専門対策課の新設)▽子ども教育学部2年仙波万季(不登校生徒らに対する文通形式の相談)

【県立大】情報工学部3年岡田龍人(中高生向け書評合戦・ピリオパトルの実施)▽同2年中塚佳吾(不登校に対する教員の指導技術向上)▽同3年清水綾乃(大学講堂での定例市議会の傍聴)▽保健福祉学部4年布野礼菜(多胎児育児に関する冊子配布)

(古川和宏)